

# 岐大のいぶき

No.9  
2005/MARCH

発行日：平成17年3月  
発行：国立大学法人 岐阜大学  
岐阜市柳戸1番1  
☎058-230-1111(代表)  
ホームページ：http://www.gifu-u.ac.jp/

GIDAI NO IBUKI GIDAI NO IBUKI

Published by GIFU UNIVERSITY



## 教育改革と岐阜大学

岐阜大学理事(副学長)：佐々木嘉三 ————— 2

## 地域と大学

戦う医療「高次救命治療センター」 ————— 3

## 話題の研究

### 野生動物救護と環境評価

応用生物科学部・連合獣医学研究科  
21世紀COEプログラム拠点リーダー：坪田敏男 — 4

## エッセー

### 多様性としての言語

教育学部助教授：山田敏弘 ————— 6

## 授業風景

### 心理学実験実習

教育学部学校教育教員養成課程3年：平田純子

### チューリリアル

医学部医学科4年：鈴木綾乃

### 数理デザイン工学セミナー

工学部数理デザイン工学科3年：佐藤維美

## サークル紹介 ————— 10

### 馬術部

### 管弦楽団

## 座談会

### ぎふ震災フォーラム

「迫り来る巨大地震」その時、あなたは・・・ — 12

## 大学への想い

### 「産官学“消”」の連携で日本型養鶏の構築

株式会社 後藤孵卵場社長：後藤悦男氏 ————— 15

平成17年度岐阜大学公開講座 ————— 16



岐阜大学

# 教育改革と岐阜大学



岐阜大学理事(副学長)  
佐々木 嘉三

総ての国立大学が昨年4月に法人化され、もうすぐ1年になろうとしている。国立大学法人は中期目標・計画をたてて文部科学大臣による設置認可を受けなければならないが、本

学の基本理念は「学び、究め、貢献する岐阜大学」ということである。これらは、岐阜大学が社会に対してその活動の基本を示しているというばかりでなく、本学で働く教職員総ての働く姿勢であり、学んでいる学生全員の成長目標でなくてはならない。

近年、社会から大学に対する期待はきわめて大きくなつてきている。それは、環境問題や資源・エネルギーなどの問題に加えて、21世紀の社会の在り方、人間として生涯を有意義にそして幸せに生きるための知的・精神的な充実の在り方が大学に求められていることの反映である

う。中央教育審議会も21世紀は、「新しい知と価値観」、「新しい科学技術体系」を構築する必要がある。「知識基盤社会」と定義づけており、その中で大学が果たすべき役割の重要性を述べているが、その戦略・戦術の企画と実現のためには大学の今後の教育・研究の在り方が重要であるとの認識を示している。さらに、EUや米国などの先進諸国も全く同じような状況で、教育の在り方や内容がサミットの議題にも上り、情報技術の大きな発展をふまえて高等教育が国際的な競争の中に置かれるようになってきた。すなわち、それぞれの大学の教育研究のレベル・内容が国内だけでなく、外国の大学との比較・評価の中で問われ、存在意義が問われる時代になつてきている。はじめに書いた大学の目標も、就職などでの学生に対する評価も、このような国際的なレベルでの質・内容を考慮に入れて考えなければならないのであろう。

本学は「教育に関する社会的要請の強い分野の取組」や「大学教育の質の充実」など、特色ある分野での教育(特色GP)や現代的なニーズに応える教育(現代GP)の取組で、競争的な資金を全国の大学の中でもトップとなる4件獲得した。これら評価された教育の開発と実践で、さらに大学教育全体のレベル・内容を改革し、高めるよう努力しなければならない。人間と社会の進歩・発展が教育研究の発展と表裏一体の関係にある今日、総ての力を結集して目標に掲げた「学び、究め、貢献する大学」に向かつて、着実に成長して行かなければと決意している。



## 戦う医療「高次救命治療センター」



小倉 真治 高次救命治療センター長

**小倉**◆岐阜大学高次救命治療センターの小倉真治と申します。

**粕谷**◆今回「いぶき」の編集委員長を務めます、地域科学部の粕谷です。

**粕谷**◆先生のご出身は、こちらでしたよね。

**小倉**◆岐阜大学医学部を卒業後、香川医科大学で18年間救急医学を学び、母校に帰って参りました。

**粕谷**◆ご専門は？

**小倉**◆よく聞かれる質問です。

「先生のご専門は何ですか？」「救急です。」「いや救急の時には患者さんを見るのですが、ご専門は何ですか？」「ですから救急ですってばー」この会話を三回繰り返すと、だんだんお互いに機嫌が悪くなるのを感じてしまいます。

**粕谷**◆(笑い) 救急そのものがご専門なのですね。

**小倉**◆救急なんて特に専門の医者な

んでいらないうじゃないかと思っっている皆様は多いと思います。

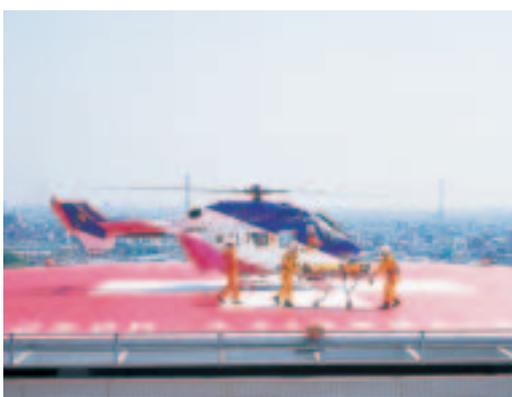
こんな例え話を作ってみました。眼が痛いときに、眼科の病院に行きますね。ところが行ったら、耳鼻科の先生が診察していたらどうしますか？ちょっと驚き、そしてむっとするでしょう。おわかりでしょうか、今世の中の殆どの病院では救急という看板を上げながら救急科の専門医が診療に出てきません。

現代の救急医というのは、各診療科に患者を引き継ぐだけの業務ではなく、生命の危険が去るまで、外来から入院中に至るまで治療に当たります。つまり重症救急患者は、救急外来担当医が診療科に丸投げしてそれを受けた一人の優れた外科医が上手に手術さえすれば助かるという片手間の救急医療の時代ではないのです。手術は全体の治療計画の一要因であり、治療計画全体をマネージメントできる能力を有しているかどうか救急医の要件と云えます。

**粕谷**◆フム、新しい診療部門ということですね。月並みな質問ですが、目標をお聞かせ下さい。

**小倉**◆今後の岐阜大学の救急・災害医学分野についてですが、二つの目標があります。一つは高度な救急医療を展開し、救急専門医を養成することであり、二つ目は災害時に対応できる医師を養成することです。

一番目の高度な救急医療ですが、新しい岐阜大学病院では高次救命治療センターが始動しました。かつての救急部、集中治療部、手術部、人工腎室を一箇所に集中させて病院内外の急性期重症患者の治療を集中治療する病院の中央部門です。特に外傷、心疾患、脳血管障害には力を入れています。その治療に当たるのは、救急専門医を中心とした28名の専従医です。中規模の病院よりも多数の医師を救命医療のために専従させているわけです。病院屋上には、直通エレベータを有するヘリポートがあり、県防災ヘリの協定の下、ドクターヘリを活用しております。すでにヘリコプターを使わなければ亡くなられていたであろう患者様を大勢助けることが出来ました。



**粕谷**◆見ました。先日、ヘリが病院の屋上に着陸していました。ドクター！

ヘリが活躍しているんですね。  
**小倉**◆そうですね。二番目の災害医療ですが、災害医療対応ができるスタッフの育成、教育の場として、また、災害医療センター等への専門領域医師派遣など支援施設としての役割を果たします。学生への講義、卒業臨床研修の中で災害医療のトレーニングを行い、来たるべき東海地震の時に対応できるような救急医も育てたいと考えております。

**粕谷**◆そうですね。東海地震はすでに秒読み段階にきております。阪神淡路震災も、初動の医療活動がどれほど重要かを示しましたね。ただ、沢山の病院が倒壊したり、アクセス不能で利用できなかった。

**小倉**◆ご安心下さい。新病院は免震構造になっており、地震直後から迅速な医療活動が展開できます。

最後に皆様にお願ひです。日本最大と言われている岐阜大学の高次救命治療センターですが、それでも限界はあります。岐阜県の救急医療の最後の砦として活躍するために、他の病院でも治療の出来る軽い病気などはどうぞそちらの病院に行つて頂いて、このセンターを大事に育てて頂きたいのです。何とぞよろしくお願ひいたします。

**粕谷**◆ありがとうございます。頼りになりそうですね。ご活躍を楽しみにしております。



# 野生動物救護と環境評価

坪田 敏男

応用生物科学部・連合獣医学研究科  
21世紀COEプログラム拠点リーダー



生動物救護センターにおける活動を紹介します。また、その活動から見える環境問題について整理する。さらに、これからの本21世紀COEプログラムの方向性を指し示したい。

## COE野生動物救護センターの活動

平成14年度にスタートした21世紀COEプログラム「野生動物の生態と病態からみた環境評価」研究教育拠点形成プロジェクトは早2年が経過し、これからの勝負の後半戦である。研究業績を積み重ねるだけでなく、社会的インパクトのある研究成果を生み出すことがわれわれの重要課題であることと認識している。その中で、本プログラムの一環として始まったCOE野生動物救護センターの運営も軌道に乗り出し、やはり社会へのインパクトある成果を出すためにスタッフ一同日夜励んでいるところである。本稿では、COE野

COE野生動物救護センターでは、野外で傷ついたり病気を患ったりした動物を受け入れ、可能な限り野生に帰すという事業を行っている。これまでに75頭羽の傷病野生動物が持ち込まれ、約3割にあたる23頭羽の動物が野生に復帰していった。本センターのミッションとして次の5つを掲げている

- ① 傷病鳥獣の治療・リハビリ・野生復帰
- ② 環境評価(モニタリング)
- ③ 日本固有の生物多様性維持
- ④ 野生動物救護の卒前・卒後教育
- ⑤ 自然教育・インタープリテーション

これら5つのミッションをバランスよく遂行することを心がけている。

すなわち、アライグマやヌートリアなどいわゆる外来種(移入種)と呼ばれる動物や岐阜県内で有害駆除の対象として相当数駆除されている動物は救護の対象としていないとか、学生向けのリハビリテーター養成講座やバードウォッチングを開催するなど、大学でしかもCOE事業としての救護活動であることを認識した工夫が施されている。

## 野生動物の救護から環境をみる

われわれのCOEプログラムの目標が環境評価にあることから、本センターもこの目標に向かうことが求められる。そこで、不幸にも野生に復帰できなかったものについては積極的に環境評価の研究に活用している。すなわち、死亡した時点であるべく速やかに病理解剖に供し、傷病の原因究明に努めている。病理診断はもろんのこと、X線撮影による骨折や脱臼の確認、

ウイルスや細菌などの微生物検査、感染症に関する抗体チェックなど、多面的なアプローチを行っている。これらの検査により、交通事故によるものか、衝突によるものか、感染症によるものか、中毒の疑いがあるのか、など、ある程度はその原因が分析できる。これまでに、密猟により撃たれたクマタカ、やはり密猟によりワナにかかったタヌキ、鉛中毒のハクチョウなど、明らかに人為的な要因で傷病(死亡)を患った野生動物をいくつも見てきた。このように野生動物に対する人間の脅威は間違いなく存在し、その実態はこのような救護活動を通じてしか見えてこないものである。

## 21世紀COEプログラム後半戦に向けて

先述のように、本COEプログラムは2年が経過し事業の約半分を終えた。そこで後半の2年間の事業を展望してみたい。中間評価



では、「当初目的を達成するためには、一層の努力を要する」というコメントが付いていたことより、これまで以上に野生動物の生態と病態からみた環境評価を具現化する調査研究が必要なのとは言いつまでもない。そこで次のような総合研究プロジェクトを立ち上げることにした。1つは「ツキノワグマとイヌワシの棲む森プロジェクト」、2つ目は「野生動物の死体および救護個体からの環境評価プロジェクト」、3つ目は「4大学（連合獣医学研究科構成大学）連携型研究プロジェクト（3課題）」である。この3つのプロジェクト研究を中心に据え、さらに社会にインパクトのある環境評価を行っていきたいと考えている。

## COE野生動物救護センターを活用した研究

- ① 環境モニタリング
- ② 傷病野生動物の臨床獣医学的研究
- ③ 野生復帰に向けたリハビリテーション法の確立



密猟により前足を痛めたタヌキ、足の切断手術を受けリハビリテーション中



野生復帰直前のヒヨドリ、幼鳥へのリハビリテーション例

## 多様性と一つの言語

教育学部 山田敏弘

一八九八年、クロアチアのクルク島。ひとりの男が地雷で死んだ。よくある事故かもしれないが、この瞬間、ダルマチア語という言語はこの世から完全に消えていった。

これは一例に過ぎない。「言語」の数え方にもよるが、毎年、何十もの言語が消滅していると言われていく。単なるノスタルジーで言語の死を嘆くのではなく、多様な思考の源の枯渇が、今、危惧されている。

確かに言語はコミュニケーションの手段である。通じなければ意味がない。皆が理解できることはよいことである……。これを突き詰めれば、ひとつの「世界言語」があればよいことになる。それはプログラム用の言語であつてもよく、重層的な語彙や複雑な文法は必要ない。「お兄ちゃん」は「兄」でよく、「兄」と「弟」、「兄」と「姉」を区別する必要もないのかもしれない。活用なども無用である。

日本語であつても英語であつても、歴史を背負っている自然言語は「世界言語」となる資格はない。何千年もの間の周囲との接触によって語句の微妙な使い分けをし、また不規則な活用も多いからだ。しかし、「世界言語」となるように期待されて造られた 에스ペラント語は、英語に取って代わつただろうか。日本語と置き換わつただろうか。さらに話者の少ないポランド語だって、その地位は揺らいでいない。それはなぜか。

言語はコミュニケーションツールであるが、同時にその言語を使つてきた人々の歴史そのものであり、さまざまな使い手が紡いできた絆である。この多様性の遺産の上にこそ、「私」が「他の誰でもない私」であるために、自らの個性を屹立させなければならぬのだ。

自分という個性を自分のことばで語る。

この大切なことを、コミュニケーション技術の発達とともに私たちは忘れてきてはいないだろうか。効率の名の下に薄っぺらな一元化を求めてはいないだろうか。そして、「どこにでもいる誰か」になつてはいないだろうか。

英語を含め、誰にも通じる「共通語」が必要なくともある。災害救助の現場では「共通語」によって命が守られることもある。しかし、ひとつの高みとしての「自分」は、自分の培ってきたことばでしか表現できない。

ダルマチア語であれ、日本語であれ、そして岐阜の方言であれ、母語はそこでしか咲かない個性を芽吹かせる、かけがえない大地であり、多様性の源である。

引き継いだことばを育め。自分のことばを学問という鋤と鍬で耕し続けてこそ、自分らしい花が咲く。

# LESSON SCENERY

## 心理学実験実習

教育学部学校教育教員養成課程3年 平田純子

### 授業風景

「心理学とは何ですか。」と聞かれて、あなたは何と答えますか。「一言で言うならば、「目に見える行動」とそこから推測される「こころの働き」を、科学的に研究する学問です。つまり、誰もが経験する事実によって心の働きを解明しようとする学問です。心理学はとても幅広い学問です。あなたの頭の中にもいくつかの心理学の分野が思い浮かんだかもしれません。心理学では、人の心の全ての働きが研究対象になります。それらを測定するために、実験法だけでなく、質問紙法、観察法、心理テスト法、生理学的方法などの特別な研究方法が必要となります。「心理学実験・実習」では、



それらの特別な研究方法を体験的に学びます。講義で理論を学ぶこともできますが、ここでは、自分なりにその理論や研究方法について深く考えることができる貴重な機会となります。学問としての「心理学」の一部を自分で確かめられると思うと、好奇心が湧いてきませんか。

# テューリアル

医学部医学科4年 鈴木綾乃

私は今、周産期・女性生殖器コースで女性の身体について勉強をしています。  
週3回、朝8時半からの1時間、「テューリアル」という時間が設けられており、学生8〜9名が様々な症例について、自分たちで考え、疑問をぶつけあいながら検討しています。

産婦人科の内容は、女性では、自分の体で起っていること(生理学)、また将来起こり得ること(妊娠・病気など)なので、真剣です(もちろん男性も真剣です)。今までの経験や雑誌などである程度得た知識、マスキミで騒がれている内容をふまえ、たまには症例の内容から脱線しながらも、テキストを片手に、学生同士が楽しくかつ真剣に勉強をしています。話が行き詰ったり間違った方向に進んだときには、テューターの先生方が適切なアドバイスをしてくださり、軌道が修復されます。

関連授業では、産科・婦人科の先生方が講義をしてくださいます。実際の臨床現場での話を交えながらの授業なのでとても聴きごたえがあります。

今日、少子化・出産年齢の高齢化・不妊症・性感感染症・性の低年齢化など、様々な問題があります。将来、このような問題に私たちが直面したとき、患者さんに対して治療だけでなく精神面でも対応できるように、先生方からしっかりと学んでいきたいと思っています。



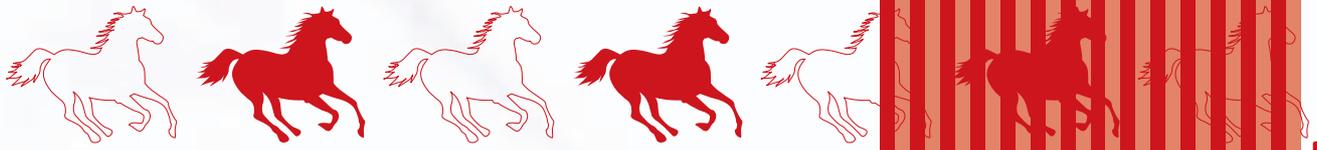
# 数理デザイン工学セミナー

工学部数理デザイン工学科3年 佐藤 維美



3年後期にあるこのセミナーは、通常の学年全体で受講する講義とは異なり、学生がいくつかのグループに分かれてそれぞれ異なるテーマについて学習していくものです。セミナーのテーマはいずれも数学・物理学・工学を多様に融合したもので、その中から自分が興味あるものについて学習し、理解を深めることができます。学生によっては、受講制限にも関わらずあれもこれも受講したいと悩む人もいます。

このセミナーには今までの全体講義には無い雰囲気があり、いつもより集中して講義を受けることができます。それ以上に、なんとと言っても人数が少ない分、先生との距離が短くなり、分からないところを質問しやすくなったと思います。また、同じセミナーの学生で教え合うことを通して、仲間付き合いが親密になったことも、とてもうれしく思います。



# サークル 紹介

サークル紹介ということで私たち岐大馬術部の紹介をしようと思います。馬術部は岐阜大学の北のはしっこにひっそりと存在しています。部員10名、馬8頭、そして犬3匹が所属しており、ほぼ毎朝6時から活動しています。主な活動は馬の世話をすること、馬に乗る練習をすること、そして大会に出場することです。馬術部というと大学のサークルの中では少し異質なイメージがあります。人と人だけでなく、人と馬との関係の上に成り立っているからかもしれません。しかし、その馬こそが最大の魅力なのです。言葉の通じない馬と気持ちを通じ合わせ障害を飛んだり正確に運動させたり…それはとても難しいけれど自分の気持ちに馬が応えてくれたときの嬉しさは格別です。ウルウルした目やプニプニした鼻も一度接したら忘れられません。馬が好きなお人、興味がある人、ただ見てみたい人…馬の魅力に触れて来てみませんか。

## 岐阜大学 馬術部





## 岐阜大学 管弦楽団

オーケストラは、バイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバスの弦楽器とフルートやクラリネット、トランペット、トロンボーンなどの管楽器で演奏します。毎年2回行われる演奏会と入学式、卒業式で演奏するのが主な活動です。そして演奏する曲や指揮者、会場の場所など、全てを自分達で決めるので、オリジナルの演奏会が作れます。また、現在100名以上の団員がおり、様々な学部の学生と友達になれるのも魅力の一つです。時には先輩からテストの過去問をもらったりできます(笑)。日ごろの練習以外にも夏には志賀高原、春には知多半島(変更する場合があります)に合宿に行きます。合宿では肝試しやスイカ割り、花火などのイベントもたくさんあり、普段の学生生活だけでは味わえない貴重な思い出が作れます。もちろん飲み会もありますよ。

4年間しかない大学生活で楽器ができるようになれば、めちゃくちゃカッコイイですよーきっと楽しい大学生活を送れること間違いなしです！



テーマ

ぎふ震災フォーラム「迫り来る巨大地震」

その時、あなたは…

岐阜大学流域圏科学研究センター長の杉戸真太教授は、同センターの久世益充研究員、工学部の能島暢呂助教授、古本吉倫助手らとともに地震工学研究室を組織し、強震動の予測技術や都市地震防災に関する先駆的研究を行っています。それらの成果は、岐阜県内にとどまらず、東海地域全般の地震防災の実務にも広く生かされてきています。

杉戸教授が監修するぎふ地震体験博(県、岐阜市、岐阜新聞・岐阜放送主催)が、岐阜市学園町の未来会館で2004年11月9日～11月14日に開催されました。その中で、識者や市民団体、ボランティア代表らによるパネルディスカッション、「ぎふ震災フォーラム」が行われました。この内容を紹介します。

コーディネーター

杉戸 真太

(岐阜大学教授  
流域圏科学研究センター長)

パネリスト

伊藤 和明

(NPO法人防災情報機構会長  
元NHK解説委員)

吉田 明夫

(東京管区気象台長)

井筒 重慶

(前オリス球団代表、関西国際大教授)

鷺見 せつ子

(生活協同組合コープきふ組合員理事)

浦野 愛

(NPO法人レスキュー  
ストラクチャー事務局長)



杉戸▼先頃  
起きました  
新潟県中越  
地震につき  
ましては、

皆様御存知のように現在も多くの方々避難所生活を余儀なくされております。このような内陸の活断層地震というのは、日本で一番活断層が多い岐阜県にとつては決して他県のこととは考えられませんが、また、東海・東南海地震はいつ起きてもおかしくないとされています。これら両方にはさま



伊藤▼私は、  
阪神大震  
災が都市  
災害であつたのに対し、

新潟県中越地震は山地災害であつたと位置づけています。山地災害には、山崩れなど直接的な災害もありますが、山村の孤立化対策が非常に重要と思います。地震防災というのはどうしても大都市に偏重しがちです。しかし新潟県中越地震の山古志村のように、しば



吉田▼阪神  
大震災が起  
きた当時、  
地震計は兵  
庫県と淡路

らく連絡がつかず村民が閉じ込められてしまつて、2・3日後に自衛隊のヘリコプターでやっと助けられた現状があります。山間部ほど高齢者が多いことを踏まえて、山村の孤立化対策を国や地方自治体がどう進めていくかが問われているのではないのでしょうか。

島に各1箇所しかなく、どこに最も大きな被害が生じているのか推定することは困難でした。これを契機に、気象庁や県や地方自治体による各地の地震計設置数はかなり増えました。気象庁では1時間程度かければ、観測される周囲の地震計データを基に地盤情報も加味して、震度計のない場所でも「推計震度」も出せるようになりました。また、巨大地震に備えた「緊急地震速報」についても御紹介したいと思つています。地震には2つの波が



あります。最初の波は小さな揺れで速度が早いため先に到達し、それから大きな揺れを生じる波が来ます。この小さな揺れを感じてから大きな揺れに至るまでの時間を有効に利用しようというわけです。心配される東海・東南海地震の場合は、地震発生の情報発信から大きな地震が来るまでに伊勢湾周辺ですと30秒程度余裕があります。この最初の小さな揺れ直後に、緊急対応で例えばエレベーターを止める、ガス栓を止める、新幹線に急ブレーキをかける、水門を閉める等して地震災害を少しでも縮小できないかということで、現在様々な機関と協議している状況です。



**井籠**▼私は地震の専門家ではないので、阪神大震災

の経験から学んだことをお伝えしたいと思います。あの時の揺れは10秒ほどでしたが、10分くらいの非常に長い時間感じました。発生後は、恐怖による緊張でどろどろが、飲み、飲料用に限らずトイレ用や生活用の水の重要性を痛感しました。また、前後左右に比べ、頭上への注意は盲点なことも知りませんでした。



**鷲見**▼私は、阪神大震災で多くの住民を救った「地域力」

の重要性を学びました。「地域力」という言葉に出会ったのはTVで、淡路島の住民が地域の人を助け出したのは、普段から誰がどこにいるのか把握しておりコミュニケーションが取れていたためということ。我々は組合員を集めた防災研修やネットワークづくりに努めています。意見を出し合う中で、幼児を抱えて避難用具を持って避難所までは走れない、非常備蓄にはパンが多いが子供が小麦アレルギーなので何とかならないかという声もありました。そういう方々のことを考えるということは、皆のことを考えることに繋がると感じます。一人一人が防災に対して意識と備えを持つことが災害時の「地域力」の発揮につながると思います。



**浦野**▼私の方からは「災害ボランティア」について少しお話しさせて頂きます。阪神大震災は広域の都市型災害であったことから、地縁血縁のサポートがうまくいかなかった現状があります。それを

補ったのが全国からかけつけた災害救援ボランティアの方々でした。阪神大震災以降の災害にはその都度災害救援ボランティアが活躍し、その存在は社会でも大分認められてきました。私は、多くのボランティアが被災地に入って活動するにあたり何を優先するかと考えたときに、やはり避難所生活でのサポートが重要になると気づきました。災害ボランティアセンターを介して避難所生活のサポートのためのボランティアを派遣する方法もありますが、小さな町では3人体制で災害時のボランティアセンターの中心を任せるようになっていくこともあり、いざ自分の町で災害が起こったとき多くのボランティアを受け入れるだけのノウハウや力量が至っていないこともあります。被災者が今何を本当に必要としているのかをじっくり時間をかけて聞き出し、私たちがどんな支援をできるのかを考えていく、そういった支援の形というの、今必要なのではないかと思えます。**杉戸**▼以上で、パネラーの方々から今回のテーマに対する御意見を頂きました。伊藤先生からは山村の孤立化の問題について御意見を頂きました。これについては何といても道路網がきちつとしていないかポイントではないかと思えます。

岐阜県に限らず山間部を有する県は、地震がなくても豪雨による斜面崩壊などがよくあります。孤立化に影響のあるルートを優先的に強化する政策もあると思うのですが、その辺りに関してはいかがでしょうか。

**伊藤**▼それは、地震被災地の社会環境とか地形に大きくよるものだと思います。山村部の孤立化の多くは道路の寸断によって生じるものです。一方、阪神大震災では、被災地の神戸・芦屋・西宮等は六甲山地と瀬戸内海の間、狭い平野に密集して広がっており、両側から入ろうとしても道が一本しか生きていない状況でしたので救援活動は困難を極めました。そういう意味で都市そのものが孤立化してしまっただけとも言えます。道路網の確保が復興には不可欠なので、各地域で国や自治体が対策を考えていかねばならないでしょう。

それから、浦野さんが話されたように、ボランティアは阪神大震災から10年を経て成熟してきたと思います。今後は被災者の自立や、組織、コミュニティづくりをどう助けるかが課題ではないでしょうか。

**浦野**▼おっしゃる通りでボランティアが手を出し過ぎると、地域のコミュニティの力をそこね、自立でき

る力もそぎ落としかねません。地域のリーダーと話し合い、サポートと自立のいい関係づくりがキーワードだと思っています。

**杉戸**▼鷺見さんは「地域力」の重要性について述べられました。特に新興住宅地のような、住民がなかなか町内会にも参加しないような場所で「地域力」を付けるにはどういったことが必要でしょうか。

**鷺見**▼私は特に災害時ということではなく日常のつながりが大切だと思います。まず身近な子供会や学校の行事などを通じてまず母親同士、そこから周り、地域へとコミニケーションを広げていけるといいと思います。

**井篁**▼先ほど道路網の話が出ました。これも私の経験から申し上げます。阪神大震災では橋という橋がすべて崩れ、通常20分で行けるところが2時間もかかりました。警察や自衛隊が道路整備を行って車が走れるようになって、橋を渡れないため病人搬送ができませんでした。新潟中越地震のようにヘリコプターがもつと活用されていた。素人ながらに強く思いました。

**伊藤**▼今の問題とからむのですが、死なずにすんだ命を死なせない努力が今後の課題で、地域の緊急医療体制をどうするかが問題です。

**杉戸**▼岐阜県は、今後起こると予想される各地域の被害想定に合わせた各地域の医療体制を検証しており、各地域の救急医療に対応できる人数や病院施設、どうい地震ではどの地域は弱点であるかなどを調べております。今後、この調査結果を基にどう体制づくりしていくかが重要です。

さて、皆様から貴重な御意見を頂きありがとうございます。最後に岐阜の皆さんに伝えたいことを一言ずつお願いします。

**吉田**▼「災害は忘れたころにやってくる」と言われますが、震災はいつくるかわからないことを念頭において防災努力をして頂きたいです。

**伊藤**▼活断層地震については予知ができません。岐阜県は東海地震より東南海地震の方が震源に近いです。専門家の一致した見方では東南海地震の確率的な発生ピークは2030年前後ではないかと予想されています。子供、孫に地震防災を伝え、関心を持続させていく必要があります。

**井篁**▼また私の経験からですが、余震の恐怖は本震を経験しているので大きいのですが、余震は本震よりも大きくないので、このことを念頭に自らを勇気付け落ち着いて行動していただきたいと思えます。

**鷺見**▼「まさか」と言わないように地域の中で体制づくりを考えていきたいと思っています。

**浦野**▼災害弱者支援は重要ですが、特定団体の人だけが支援にあたるのでなく日常関わる医療、福祉

など地域の資源を活用しながらの仕組みづくりを目指したいです。**杉戸**▼今回の議論が、岐阜の皆さんの地震防災の意識啓発につながれば幸いです。貴重な御意見、活発な議論ありがとうございました。



▲1891年（明治24年）岐阜県・愛知県に大きな被害をもたらした「濃尾大地震」。写真は、岐阜市伊奈波神社より西を望む。（岐阜市歴史博物館蔵）

# 大学への想い



産官学連携を積極的に取り組まれている岐阜大学そして先生方の御努力に敬意を表し感謝申し上げます。昨年、高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) 発生で、日本養鶏産業は重大危機に直面しました。現在も韓国はじめアジア諸国で流行しており、日本での本病再発は全く油断できません。本病発生原因には①地球環境の破壊・汚染・温暖化②大規模養鶏場の過密飼育③養鶏密集地帯の出現④鶏飼養・防疫衛生の技術開発普及の遅れ等があります。世界各国は、これら原因の改善に、国境を越え協力してゆかなければならない。

我が国の養鶏は種鶏、飼料、薬品、各種資材、技術の多くを外国依存しています。今後、世界各地でHPAIが続発すれば種鶏は輸入停止となり、異常気象で食料・飼料が不作となれば輸入できず、日本養鶏産業は存続が困難となります。

今や、自国で21世紀持続可能な日本型養鶏の構築が強く求められて

います。それには消費者も含む「産官学“消”」連携強化で、次のプロジェクトの取り組みが大切であると存じます。①消費者ニーズ・気候風土適合の国産鶏の育種普及②自給飼料の生産利用拡大③重要鶏病ワクチン開発と防疫衛生技術普及④自然環境・鶏福祉を守り過密でない飼育システムと飼養管理技術の開発普及⑤安全・安心・健康・美味しい鶏卵肉の生産供給⑥鶏排泄物の肥料化・バイオマス利用を含む循環型養鶏の開発普及⑦地産地消の実践拡大⑧食育教育の充実普及等です。ここに岐阜大学が日本型養鶏の構築に、指導的役割を果たして頂きたくお願い致します。

最後に、岐阜大学は学問・研究・教育を通して、各々の特異性とリーダーシップを発揮され、産学官消の連携による健全な産業づくり、住民満足の地域・国づくり、海外協力、世界平和に貢献されるよう希望申し上げます、岐阜大学の益々の充実発展を心から祈念申し上げます。

## 「産官学“消”」の連携で 日本型養鶏の構築

株式会社  
後藤孵卵場社長  
(岐阜大学各務同窓会会長)

後藤悦男

# 平成17年度岐阜大学公開講座

平成17年度に予定している公開講座について紹介します。  
実施部局へお気軽にお問い合わせください。

講座名		受講対象者	開設日	講習料	実施部局電話番号
免許法認定公開講座	学校カウンセリング特論	現職教員 (3年以上の教職歴)	6月11日(土)～6月26日(日)	10,200円	教育学部 058-293-2203
	授業設計開発特論Ⅰ		6月11日(土)～7月16日(土)	7,200円	
	学校経営学特論		7月8日(金)～7月24日(日)	10,200円	
	教材開発特論		8月22日(月)～8月25日(木)	10,200円	
	遠隔教育システム開発特論Ⅰ		10月8日(土)～12月3日(土)	7,200円	
望遠鏡を作って木星・土星を見よう		小学生と その保護者	4月29日(金)	教材費 3,000円程度	地域科学部 058-293-3002
望遠鏡を作って月を見よう			7月16日(土)	教材費 3,000円程度	
望遠鏡を作って火星大接近を見よう			11月23日(水)	教材費 3,000円程度	
望遠鏡を作って月を見よう			18年3月下旬	教材費 3,000円程度	
近代日本の人物像Ⅲ —先人に学ぶ—		市民一般 (高校生を含む)	9月24日(土)～10月15日(土)	7,200円	工学部 058-293-2365
工学の最前線		市民一般、技術者、 学生・大学院生	5月1日(日)～18年2月1日(水)	無料	応用生物科学部 058-293-2835
応用生物科学部 高校生のための体験実験講座		高校生、 指導教員	8月6日(土)～8月7日(日)	無料	生命科学総合実験センター (学術情報部産学連携課研究施設係 058-293-2014)
よくわかる生命科学 ～研究の成果がどのように生かされているか～		市民一般	10月2日(日)	5,200円	総合情報メディアセンター (学術情報部情報管理課総括管理係 058-293-2107)
まちづくりの課題と 住民の学び・生涯学習 —岐阜県の事例から—		まちづくり・生涯学習に関係する 行政職員、施設職員、団体職員、 NPO・運動団体関係者、 ボランティア、実践家、一般、学生	11月26日(土)・12月3日(土)	6,200円	



表紙には素晴らしい写真を載せることができた。プロの写真であるが、このほかにも数枚のイヌワシの写真を頂いた。いずれも力作。全てを載せることができず、残念! エッセーも素晴らしい内容をいただいた。背景写真は、イタリア、ヴェローナを選んでみた。ローマ時代から栄え、ロミオとジュリエットゆかりの町でもある。(粕谷志郎)

岐大のいぶき編集委員会

委員長／粕谷 志郎 (地域科学部) 委員／大井 修三 (教育学部) 杉山 誠 (連合獣医学研究科)  
西垣 和彦 (医学部附属病院) 佐藤 正 (総務部)

岐大のいぶきについての  
ご意見・ご要望をお待ちしています。

提出先／岐阜大学総務部総務課広報室 〒501-1193 岐阜市柳戸1番1  
TEL058-293-2009 FAX 058-293-2021 E-mail:kohositu@cc.gifu-u.ac.jp

表

紙: 話題の研究(本文4～5ページ)で取り上げた21世紀COEプログラム「野生動物の生態と病態からみた環境評価」の一環として、平成17年度から「ツキノワグマとイヌワシの棲む森プロジェクト」を開始します。その題材となるイヌワシが雄大な山並みを背景に滑空している姿をとらえた写真です。撮影者:須藤一成氏 ©Eaglet Office Inc.

広報誌名の由来:「いぶき」は、滋賀・岐阜県境にある伊吹山と活動をもよおす気分・生気・活気を意味する息吹をかけており、岐阜大学の「いぶき」を感じてほしいという願いが込められています。

岐大のいぶきはホームページ<http://www.gifu-u.ac.jp/>でもご覧になれます。